

# 鶴居村ならではの グリーンツーリズムを 創りたい!

NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会  
事務局長 服部 政人

NPO法人美しい村・鶴居村観光協会の服部と申します。これから四回にわたり、ひがし北海道鶴居村での暮らしや地域で創る観光のお話をお届けいたします。

皆さまよろしくお願ひいたします。

今年で鶴居村在住三四年目を迎えました。もうすっかり北の暮らしの方が長くなつた六三歳の自称イケてるシルバーエイジです。平成三年に大阪の民間企業を退職し、北の暮らしにあこがれて、家族四人でひがし北海道鶴居村に移住したのが二十九歳。平成三年に隣町の標茶町多和育成牧場で臨時職員として勤務し、翌年鶴居村酪農ヘルパー利用組合に正職員として採用されました。平成時代の初期、まだ私が観光協会に携わる前の観光と共に歩むきっかけになつた話し。

北海道に来て、鶴居村で暮らしして、仲間と出会って、がむしゃらに進んだ、大事な時間です。

## 大草原の小さな家を夢見て

近い将来に、欧米スタイルのグリーンツーリズムを開拓することを夢見て、夫婦でファミリーで楽しく愉快をモットーに笑顔で頑張ってきました。平成一年



キラコタン岬

に農地を取得するとともに、阿寒連峰から釧路市まで見渡せる小高い丘で、欧洲の田舎にあるようなファームレストランやゲストハウス、チーズ工房「ハートンツリー」を開業しました。同時に、世界中のバックパッカーや子育て中のファミリーが食と体験と交流でのんびり癒される空間を創り、世界中の若者がホームステイできるボランティア活動も始めました。今まで延べ一、〇〇〇人の海外青年たちとの交流が続いています。

## 私のグリーンツーリズム原点

当時の私の田舎したいグリーンツーリズムです。この考えは、今もあまり変わらず地域の観光の足すことも引くこともない、そのまま美しいと感じぬありのままのスタイルです。

愛郷の地、鶴居村で、ファームインや

ファームレストラン・観光農業など通じて、様々な体験や交流をテーマに取り組んで行く旅のスタイルを進めたいと願っています。

そして、「ここで暮らす私たちだからこそ、体験や宿泊を通して「おらが村、鶴居村」の素晴らしさ、地域の誇りと生き方を感じるツーリズムを創れると信じています。この体験を通して、何かを感じ取つてもういたい、いつまでも鶴居村を忘れる」となく、「鶴の里の酪農郷」の応援隊であってほしい。それが願いです。

観光客と住民が共に生きがいを感じ取れるような心豊かな観光事業を進めたいです。

## もつと仲間の輪を広げたい

鶴居村は、ひがし北海道釧路市の内陸四〇kmに位置し、基幹産業が酪農で広い



タンチョウ

しかし「」で生まれたみんなは「なんもない」とい。」と口にします。

都市の人「」の素晴らしさを分かって

むら前に、まず地域のみんなに、「この牧歌的な景色で生きる私たちは幸せだ。」と謳い、ドイツの農家民宿による農民がセカンドビジネスとして稼ぐ仕組みやその人気ぶりが都市と農村を結ぶべく、力強くプレゼンテーションを試み、位置的にも釧路湿原国立公園、阿寒摩周国立公園に囲まれた鶴の居る村と、類を見ない農村観光地と、若手酪農家相手にビール片手に熱弁の日々を続けました。

私の熱意が絡み酒が効いたのか（笑）、村内の酪農家と協力して、グリーン・ツーリズム組織「鶴居村あぐりねっとわーく」を立ち上げることができました。あまり樂しくうれしく語りすまもしたので、もちろん初代代表にしていただきました。

## 「」など「」ろに来るか？」

### 不安な意見が…

今もしのコンテンツは、交流観光・ガストロノミーシリーズとして鶴居村の重要な観光資源になっています。

第一ステップとして、鶴居村なりでは

の着地型観光プランを計画しようと、夜な夜なビール会議が始まります。みんなは「こんなところに来るか？……」とまたまた不安な意見がでてきます。景観はもうヨーロッパなので、都会の方々が好きになってくれる村であるという自負は大いにありました。趣味でログハウスを建てる酪農家もいたりして、宿泊しながら農業体験するプランを始めました。自分たちでHPも作成し、搾乳・哺乳や羊の毛刈り体験など各自の体験プランを紹介しました。地域の紹介を兼ねて、夏の釧路湿原散策や冬のタンチョウ撮影などの情報もアップしました。レストラン経営の会員さんは、チーズづくりや地場産料理を提供するプランも紹介しました。



地域家族による哺乳体験

## たらに村人も巻き込む

### 交流型観光

解説を聞いた後、テンントコーン畑にてタンチョウ観察。皆さん、わくわくぶりタンチョウ愛に浸ります。

今までにない新たな取り組みとして、地元の人と関わりながら鶴居村の自然・暮らしに触れ、地域の人との出会いと交流をメインにする体験プランを試験的に行いました。ガイド役は、鶴居村在住のチーズ職人、タンチョウの保護活動に携わっている方など、鶴居村に親しんでいる住民の方々。「今、これ美味しいよ」「この時期、この時間、あの辺にタンチョウがいるよ」など、地元ガイドなりでの話を間近に聞いていただけ、参加者も大満足です。

見どころ・お楽しみスポットは、冬にはタンチョウのねぐらとなる雪裡川と、

撮影ポイントである音羽橋を展望地から眺めながら、「タンチョウ」、「ヨーニティ」代表より、タンチョウの生態についての

からの参加者も多く、遠くは香港や台湾から参加してくださった方々もございました。「今まで出会わなかつたような人と話ができる、たいへん充実した、楽しい時間だった」という嬉しい声が。

交流した事業者、ガイドさんも大喜び、地域づくり型観光に手がけたえを感じた瞬間です。

そして村のチーズ工房にてチーズ職人と懇談しながら「オールジャパンナチュラルチーズコンテスト」最高位受賞の鶴居村産チーズを試食し、チーズの原材料生乳（酪農）の話を語ります。寒い冬も毎日搾乳する農家さんのおかげと伝え、最後に「チーズづくりは酪農のひとつ、生産者の大切な牛乳をおいしいチーズにする」と語ります。とても素敵で忘れられない言葉です。

### 農泊の始まりを創った

#### グリーンツーリズム



グローバルな酪農体験

HPなどのSNSや口コミで、少しづつ鶴居村あぐりねっとわーくの体験も増えてきました。首都圏や関西圏、道内札幌

現在、鶴居村は首都圏などからの移住

促進事業を展開し、全国から移り住んでいる方も多いなりました。当時の鶴居村あぐりねっとわーくとの交流を通じて移住を決めてくれた方もいらっしゃいます。多くの住民が交流というリレーショントしながら創りあげてくれた「いこなうではの地域づくり型観光」が、移住促進にも一役を担つたのかもと感じています。

その後の鶴居村観光協会の観光理念である「いこなうではの食と景観と体験、そして交流」の基となつたグリーンツーリズムへの取り組みが、農泊宣言（農山漁村に中長期滞在をする観光のしくみ）として、インバウンドや特産品開発など、更に地域と進める観光事業になりました。

## 酪農の村の

### 応援団であり続ける！

勇気と感謝 100倍です。

移住したとき、小学生だった三人の子どもたちも既に成人し、末っ子の次男が後継者としてシェフで頑張っています。

私は、酪農ヘルパーで厳しくもたくましい農業者に感動しました。家内は調理の勉強をして農家レストランを開業し、地域の食材を活かした料理に奔走していました。そんなハチャメチャな家族を地域の皆さんが育ててくれました。

そんな私たちの丘の上の暮らし、が、地域の皆様の応援で「平成一八年度 第四回オーライニッポン大賞 ライフスタイル賞」受賞という栄誉をいただきました。

## 服部 政人さん

1959年大阪府生まれ。  
平成3年に大阪の民間企業を退職し、  
家族4人で北海道鶴居村に移住。  
グリーンツーリズム組織「鶴居村あぐりねっとわーく」を設立、初代代表。  
鶴居村観光協会事務局長を務める、自称イケてるシルバーエイジ。

